

アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 2020上級行政官会合(SOM)の結果概要について

令和2年8月10日
内閣府 原子力政策担当室

1. 開催日時 : 2020年8月6日(木) 14:00-16:00
2. 開催場所 : ONLINE会合(東京会場:フクラシアオアゾ丸の内)
3. 主催者 : 内閣府
4. 参加国 : オーストラリア、バングラデシュ、中国、カザフスタン、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム(12ヶ国)及び原子力エネルギー協力国際フォーラム(IFNEC)
5. 我が国の主な出席者 :
 - 江崎 禎英 内閣府大臣官房審議官
 - 萩原 貞洋 文部科学省研究開発局原子力課廃炉技術開発企画官
 - 和田 智明 FNCA(日本)コーディネーター
 - 玉田 正男 FNCA(日本)アドバイザー
6. 会議の概要 :

FNCA上級行政官会合(SOM会合)は、FNCA参加国の原子力科学担当省庁・機関の局長級が出席し、FNCAの最上位会合である大臣級会合(本年は12月10日、東京にて開催予定)の予備的議論を行う場として位置づけられている。今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実会合開催ではなくオンライン形式で会合を行った。討議の結果概要は以下の通り。また今会合ではIFNECより事務局(OECD/NEA所掌)の技術代表、グロリア・クオング女史よりIFNECの活動方針や状況についてプレゼンテーションが行われ、関連情報の共有が図られた。

(1)大臣級会合、スタディ・パネルに関連する事項

(決定事項-1): 2020年度大臣級会合(MLM2020)の12月開催と円卓会議テーマ等について

① 本年のMLM2020の開催と開催形式について

会合は12月9日(準備会合)-10日(本会合)の日程で東京、三田共用会議所にて行う(本案)。ただし新型コロナウイルス感染による国際渡航制限の状況により、実会合形式での開催可否を10月第1週にホスト国(日本)が判断し、実会合を断念する場合でも同一期日(12月10日)にオンライン形式の会合を開催する(代案)。代案の場合は会合時間を大幅に短縮し(1~2時間程度)、内容も削減する(円卓会議を行わない等)。

② 円卓会議トピックと基調講演

円卓会議のトピックは、参加国からのサーベイ回答で最も支持を集めた「研究炉、加速器の利用とその関連技術の応用拡大」(The enhancement of utilization of the Research Reactors, accelerators and applications of their related technology)とする。

このトピックについて、タイが”State Policy”、日本が“Advanced Technology”そしてオーストラリアが”FNCA Project”の3つの観点からそれぞれリードスピーチを行い、全体で討議する。尚、オンライン会合となった場合、このトピックと円卓会議は次回の MLM へ移行する。

また円卓会議トピックに関連する会合基調講演については、関連機関からの講演者の選抜、招聘を事務局が調整する。

(決定事項-2):スタディ・パネル2021のトピックについて

2020年3月に予定していたスタディ・パネル2020が中止となった為、予定していたトピックをそのままスタディ・パネル2021へ移行することを確認した。従ってトピックは「核同位体技術と気候変動科学」”Nuclear Isotopic Technology and Climate Change”となる。会議の枠組みも同様に移行し、気候変動とその社会的経済的影響を核同位体技術の切り口から「水圏(Aquatic Session)」、「陸、土壌(Terrestrial Session)」及び「食品と農業(Food safety & Agricultural Session)」の3つのサブトピックに分けて討議する。

なお、スタディ・パネル2021は2021年3月に東京で開催する予定である。

(2)FNCA 表彰

第4回のFNCA賞の選考を本年5月より開始。7月の各国コーディネーターによる最終投票の結果を受け、今回の SOM 会合にて下記の通り受賞3チーム(最優秀1+優秀2)を決定した。

- 年間最優秀研究チーム賞 : 気候変動科学(日本)
- 年間優秀研究チーム賞 : 放射線加工・高分子改質 (インドネシア)
放射線育種(マレーシア)

年間最優秀研究チーム賞受賞チームの代表が本年12月に開催される大臣級会合において受賞スピーチを行う。

以上